

鳥取県南部町の里人インタビュー！

鳥取

なんぶの里人

vol.2

NANBU no SATOBITO
2022

TAKE
FREE

移住 &
子育て





市街地から車を20分程走らせると、景色は街並みから緑豊かな山間に。
“南部町”とはいうものの
県西部に位置するこの町は、
自然に囲まれた人口1万人前後の
のどかな町です。

法勝寺川沿いに続く桜並木や、
初夏を彩る金田川の蛍たち。
四季折々の豊かな自然を感じながら
人々が暮らす、現代に残る「里山」。
環境省の生物多様性保全上重要な里地里山に
選定され、先祖の代から守りつづけた農地や
山林では人の営みとともに
さまざまな動植物たちが生きています。

この町の人は皆“里人”。
のびのびと暮らす南部町の
個性豊かな里人たちを
ちよつぱりご紹介いたします。

なんぶの里人

vol. 2

特集 移住&子育て

contents

子育て×里人

- 4 幅田さん 大阪府から1ターン
- 6 齋藤さん 米子市から1ターン
- 7 高橋さん 米子市から1ターン

自然環境×里人

- 8 桐原さん 神奈川県から米子市を経て1ターン
- 10 西村さん 米子市から1ターン

仕事×里人

- 12 益村さん 広島県から1ターン
- 14 細田さん 東京都からUターン
- 15 鈴木さん 東京都から1ターン

- 11 移住者アンケート
- 16 子育て応援制度
- 18 里山暮らし応援制度
- 20 南部町マップ&おすすめスポット
- 23 おわりに

子育て×里人

豊かな自然と人に 見守られながら 子育てができる喜び

幅田 舞さん

家族構成・夫/子1人
大阪府から1ターン



自然のすばらしさや怖さを体感したり、 地域と関わったりして、すこやかに育つと思うんです

里山をフィールドに 子どもの生きる力を育む

地域おこし協力隊3年目の2020年に結婚し、翌年、第1子を出産した幅田舞さん。現在は初めての子育てと向き合いながら『森の保育サークル うたたね』を運営し、保育士の高橋貴恵さんと町内をフィールドに、ゼロ歳〜2歳児の親子を対象とした『おさんぽ会』を定期的に開催している。

『おさんぽ会』は、幅田さんが地域おこし協力隊の任務の一つとして2021年に立ち上げた活動だ。林道や小川の散歩、外遊び、畑の収穫など、子どもたちは自然とふれあう場で過ごしながら、自分で楽しいことを見つけ、思いきり遊ぶ力を発揮する。自然の中は危険とも隣り合わせだが、できるだけその子のペースで過ごせるよう、安全を考えながらも寄り添うことを心がけている。



絵本を読む幅田さんの楽しい声色に合わせて彩月ちゃんも声を出す。

「子どもたちが友だちや地域の人と関わることでなく、大人にとっても息抜きになったり育児の相談をしたりと、些細なことを話せる場を作っていくたいですね」と話す。これまで延べ30組の親子が参加し、子どもや親同士、おさんぽ会の開催に協力してくれた地区の人たちなど、地域交流の輪も広がった。当初は未就学児が対象だったが、幅田さんと高橋さんの出産・育児により体制が変わり、今は2歳児までに限定。小さな赤ちゃんとも楽しめる水遊びやドングリ拾い、雪あそびなどを企画し、遊んだ後は自宅を開放して親同士のお茶会を開いたりする。幅田さんと高橋さんも子連れで参加し、スタッフとして目を配りながら、ゼロ歳児のわが子の反応に驚いたり、ときめいたり発見も多い。母親になった自分たちも成長させてくれる『おさんぽ会』は、長く続けていきたいと考えている。

地域と関わりながら すこやかに成長してほしい

幅田さんは大阪府出身。都会の真ん中で生まれ育ちながら、子どもの頃から田舎暮らしに憧れを抱いていた。大阪市内で幼稚園教諭をしていた頃、自然の中で幼児教育を行う『森のようちえん』の活動をテレビで知って共感し、森のようちえん発祥の地、デンマークへ2年間留学する。現地で鳥取県智頭町の『森のようちえん まるたんぼう』の存在を知り、帰国後の2016年に鳥取へ。園舎を持たず、樹齢300年以上の人工杉を有する森が学び舎という、森のようちえんの研修生として働いた経験

と手応えが、『おさんぽ会』の活動につながっている。

南部町生まれの夫、洋生さんの実家から車で10分の集落。大山を望む平屋の古民家で、親子3人で暮らす幅田さん。この家は、町内の空き家をなんぶ里山デザイン機構が借上げてリフォームした後に、入居を希望する人に賃貸で貸し出す制度を活用した住宅で、快適に暮らしている。また、子どもから目を離せない時期とあって、おかずを作って届けるなど、常に気遣ってくれる洋生さんの両親をはじめ、普段から親しいご近所の人や友人たち、地域の人に見守られながら子育てができるありがたみを実感している。

「子どもって、親と向き合うだけではなく、自然のすばらしさや怖さを体感したり、地域と関わったりして、すこやかに育つと思うんです。田舎暮らしの魅力が詰まった南部町で、子育てができて良かったです」娘の彩月ちゃんは、この春から町内の保育園へ。幅田さんの子育てと『森の保育サークル うたたね』の活動は、新しい扉を開いたばかりだ。



森の保育サークル うたたね

未就園児の親子を対象に、町内をフィールドにしたおさんぽ会や外遊びを月3回程開催。
(10:00 ~ 12:00 / 曜日不定)
WEB <https://utatane2020mori.wordpress.com>
MAIL moriasobi08@gmail.com

公式LINEにておさんぽ会の予定や
ブログの配信をしています！ →



移住してこそ出会えた 子どもが子どもらしく居られる家

齋藤 大輔さん

家族構成・妻／子3人
米子市から1ターイン



縁のある町で暮らすことで 家族みんなの笑顔が増えた

JR米子駅前で人気のイタリアンバルを経営し、その店の料理長も務める齋藤大輔さん。家では7歳、5歳、2歳と、3児の父親の齋藤さんが南部町に移り住んだのは、2021年暮れのことだった。

それまで妻の由美さんと家族5人で暮らしていたのは、店に近い市街地のアパート。間取りはリビング、ダイニング、キッチンが一つになった空間で、他に2つの居室があった。由美さんがキッチンに居ても、リビングで遊ぶ子どもたちが目が届き、住心地は良かった。しかし、子どもたちが大きくなるに連れ部屋は狭くなり、生活音で周囲の同居者に気を遣うようになっていた。引っ越しを考え、賃貸住宅を探し始めた齋藤さんは、仲の良い店の常連客の1人から、南部町内の空き家を活用した賃貸住宅を、移住者に貸し出す制度があることを知らされる。母親の実家が南部町市山にあり、幼い頃から祖母に会いに行った思い出がある。米子の実家も南部町に近い永江団地にあり、齋藤さんが卒業した地元の幼稚園に、今は長男が通っている。由美さんも、幼稚園のママ友から「子育てをする上でおすすめ」と聞かされていて、島根県伯太町の実家の家族は移住に大賛成だった。

入居を決めた家は、静かな住宅地の一角にある庭・車庫付きの2階建住宅で、全7部屋と、子ども部屋も充分取れる。引っ越し前に齋藤さんは1週間店を休み、家族全員が参加して、キッチンの内壁と外壁に漆喰を塗った。白を基調としたキッチンは清々しく、それでいて温かみの

ある空間になっている。

「外に物音が響きにくく、周りのお宅のご理解もあり、子どもが大声を出しても走り回っても安心です。家の中や周りでかくれんぼをしたり、サッカーをしたりと、兄弟で遊びを見つけていますね」と、齋藤さんは子どもたちを眺めながら目尻を下げる。

ご近所とも和やかな付き合いが始まり、玄関に採れたての野菜が置かれると、礼を言っておりがたく頂戴する。「私の実家周りも同じです」と由美さん。

「春になったら、庭で家庭菜園を始めたいです。子どもたちも一緒に楽しめるように、イチゴやブルーベリーを植えたいですね」と話してくれた。



イタリアンバル ピッコロ

米子市茶町 30 / OPEN 18:00 ~ 25:00 / CLOSE 日曜
TEL 0859-30-4675 / WEB <https://facebook.com/ItalianBarPiccolo/>

わが子誕生で始まった里山暮らし のびのび子育てを実現

高橋 貴恵さん

家族構成・夫／子1人
米子市から1ターン

生活環境を最優先に考え タイミングを逃さず移住

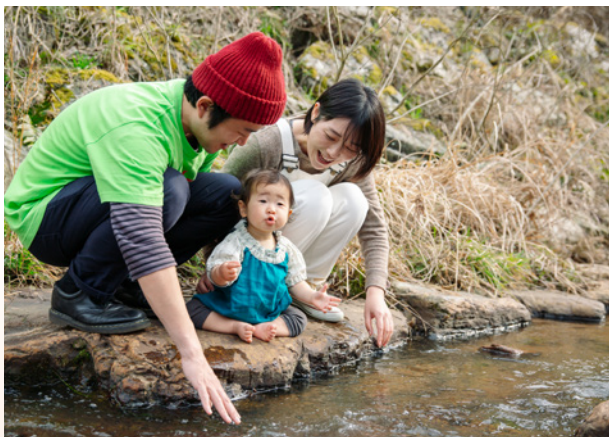
保育士の高橋貴恵さんが南部町に根づくきっかけの一つは、『森の保育サークル うたたね』が開催するおさんぽ会を幅田舞さんと立ち上げたこと。幅田さんと時期は異なるが、高橋さんも智頭町の『森のようちえん まるたんぼう』で研修生として働いている。そして、自然の中で本能を働かせて森あそびを体験する子どもたちと、「だめ」「危ない」の二言をけつて言わないスタッフの、子どもを見守る姿勢に刺激を受けた。「南部町で自然をベースにしたおさんぽ会を開催できるのは、地域の人たちが温かいからだと思います。幅田さんの〃人のつながり〃に助けられる面が大きいのですが、子どもたちが遊びに行く場所に困らない。場所提供の協力をお願いすると、快くOKしてくださってありがたいです」と語る。

夫の宏彰さんと2019年に結婚し、米子市内のアパートで新生活を始めた高橋さん。休日は2人でよく南部町に出かけ、地域交流拠点『えん処米や』のイベントに参加したり、『c a f e 七草』に立ち寄ったり。その頃から、南部町移住が頭にあった。その後、2021年に高橋さんが第1子を出産すると、移住計画は一気に進む。生まれた子はどんどん大きくなるのに、今のアパートでは狭い。宏彰さんは、なんぶ里山デザイン機構に住みやすそうな賃貸物件の紹介を依頼。そうして、赤ちゃんが寝返りを打つ前に、南部町に移住することができた。新たな住まいは、昭和40年代築の二階建住宅をリフォームしたもの。全部で6部屋があり、トイ

レも2つ。伯耆町や米子の友人家族も招きやすくなり、以前よりコミュニケーションが取りやすくなった。「住宅が密集していないので、子どもの夜泣きが気にならなくなりました」宏彰さんは目を細める。

高橋さんは、4月から娘の美詞ちゃんを町内の保育園に預け、米子市内の保育園でパート勤務へ。それ以外は地元でおさんぽ会などの活動にあてるつもりだ。

「南部町の子育て支援は、移住者には心強いですね。町が行う乳児検診も、4カ月から1歳6カ月頃まで細やかですし、助産師・栄養士さんにピンポイントで相談しやすいです。今は子連れで『子育て交流室あいあい』に寄り、小一時間遊ぶのが楽しみです」



春先のまだ冷たい川の水に触れる高橋さん夫婦と美詞ちゃん。
キナルなんぶの近くにある新宮谷公園は自然溢れた穴場スポットだ。

自然環境×里人

自分の好きな事を 仕事にできる 豊かな里山暮らしを実感

桐原 真希さん

家族構成・夫ノ子2人
神奈川県から米子市を経て1ターン



写真上・左から息子さん、真希さん、夫の佳介さん。
下・世界中でも鳥取と兵庫・島根の一部にしかいないサンインサンショウウオの成体。

リスクを知った上で、 生きものの魅力を地域の人たちと共有できれば

住み始めて気づいた 普通に「お宝」と会える南部町

南部町に生息するゲンジボタル、オオサンショウウオなどの観察会や、希少な在来生物を守るためのザリガニ釣り。(財)日本自然保護協会登録の自然観察指導員として活動する桐原真希さんは、自然観察や自然体験ガイド、地元の人と連携した保全活動を通し、里山の魅力、環境維持管理等の大切さを伝えている。

鳥取への1ターンは1999年。東京農業大学時代、学内サークル「野生動物研究会」で出会った夫の佳介さんが、米子水鳥公園の指導員に転職したのをきっかけに、夫婦で米子市へ。その4年後の2003年、南部町に移住した。

今や「里山の生きもの博士」と称される真希さんだが、南部町との縁は偶然だった。現在は水鳥公園の統括指導員を務める佳介さんと真希さんにとって、地域の自然や生きものの探究はライフワークとなっている。

「よく『生きものが好きだから南部町に移住したんですね』と言われるのですが、実は住宅ローンが返せそうだから来たんです」と屈託なく笑う。佳介さんの職場に近い米子で暮らした4年間は、賃貸アパート住まい。転入の翌年に第1子が誕生し、手狭になったため戸建て住宅購入に踏み切った。

「水鳥公園から車通勤で片道30〜40分。私が歩いて行ける範囲に、子どもの保育園や学校、スーパー、図書館が集まるなど、夫婦の希望に叶う物件が、南部町で見つかりました」

ところが、新居で暮らし始めると、この里山は生きものの宝庫だった。中でも、豊かな自然

環境の証のブツボウソウ(町の鳥)、オオサンショウウオ、コハクチョウ。この3種が、同じ自治体に生息しているのは、全国でも珍しい。

地域の生きものの 多様性・面白さを共有したい

「近所で希少な小型サンショウウオが繁殖しているなんて、環境を保つ方がいてこそ。田んぼや水路、森林の手入れをしてくださる方たちに感謝しています」と語る。また、鳥取県が10年毎に改訂発行する、絶滅のおそれある野生動植物をリストアップした『レッドデータブックとつとり／2002年版』では、真希さんがこの地で確認したカワセミやフクロウが、存在していないことになっていった。

「その時、生きもの好きのスイッチが入りましたね。身近な生きものをちゃんと見て、撮影、記録、標本作りなどの資料に残さなければ」と

その後は、レッドデータブックのリスト編さんにも、夫婦で関わっている。



もりまきフィールドネットワーク

Blog「南部町のK原さん／第2部屋」

<https://ameblo.jp/morimakin/>

主催企画「土曜日のガイドウォーク」

毎月最終土曜の午前10時から開催。

大人 850円、高校生以下 500円、園児以下 350円。

米子で生まれた長女は、今春、鳥取環境大学の四年生。南部町で生まれ、サンショウウオの巣穴掘りが得意な長男は、倉吉農業高校を卒業し鳥取農業大学校へ進学する。2人とも家の近くの水路で魚やサワガニを採り、庭先や田んぼのカエルに触ったりしながら、のびのびと育った。

「たまたま私たちの暮らしと、町の相性が良かったと思いますが、ここで子育てができて満足です」とふりかえる真希さん。地区長や学校PTA役員の任期、子どもたちの受験期にはセーブしながらも、自然や生きものの面白さを伝える活動を続けてきた。今年4月からは、主催事業の『なんぶ生きもの探検隊』がスタート。小学校児童が放課後に参加できるよう、午後に開催する。

「実は自然が一番危険で、野生の動植物には恐さもあるけれど、そのリスクを知った上で、生きもの魅力や地域の人たちと共有できればと願っています。生きものは面白いというアンテナのスイッチが入ると、映画やアニメの楽しみ方がふくらみ、普段の生活も楽しくなりますよ」

地域の風土と文化が色濃く薫る 昔の家を新生活の拠点に

西村 陽ようさん

家族構成・妻
米子市から1ターイン



100年息づく古民家を 自分の手でリノベーション

全国でも貴重な里地里山が残る南部町。この地で大正時代前後に建てられた家には、地元で採れた木材や資材をもとに、湿気や雨風、雪の多い気候を知る地場の大工、左官、瓦などの職人の技、そして自然の力を取り入れ、暮らしを工夫した里人の知恵が詰まっている。そんな古民家の一棟と、町への移住をきっかけにめぐり合ったのが、西村陽さんだ。

子どもの頃から、木と金属、旋盤や溶接などものづくりの工作機械が好きな西村さんは、住宅リフォームやリノベーション専門の建築大工として活動する一方、農耕機械や工場設備の修理などの金属加工業を営んでいる。これまでは実家のある米子を拠点にしていたが、伯耆町出身の里絵子さんと結婚を機に、お互いの実家に近い南部町に移り住むことにした。住まい探しの相談になんぶ里山デザイン機構を訪れると、機構が管理する物件の中に、築100年の古民家があった。この家のオーナーは海外に住んでおり、入居する人が決まったら、自由に改修してもらってかまわないと承諾を得ている物件だった。西村さんは、里絵子さんも気に入ったこの家を新生活の拠点に決め、建築大工の腕を發揮して自らリノベーションに取り組んだ。

自分たちの生活スタイルに合わせて改修するといっても、家は賃貸契約なので勝手な事はできない。西村さんは機構を介してインターネットでオーナーと交流し、作業の節目ごとに写真を撮ってメールで送るなど、信頼関係を築いていった。前庭に面した和室は、欧州赤マツの床

材を使いフローリング・リビングへ。

「昔の木造住宅は、長く住み続けることができず、人が住まなくなると、急にあちこち痛み始めます。フローリング工事の前は、床下に潜っての修復作業が多かったですね」と西村さん。時には職人仲間に手伝ってもらい、西村家のリノベーション工事は完了。その後、里帰りしたオーナーと県外で暮らす姉妹が家を訪ねてくれ、「思い出の詰まった生家を、よみがえらせてくれてありがとう」と、工事の完了と入居を喜んでくれた。

「取引先の社長をはじめ、このリビングに通した人は、なぜか必ず寝ころんで、くつろぎモードになってしまふんですよ」と笑う西村さん。里山の四季を告げ、自然のリズムを運ぶ風が通う家で、里絵子さんと紡ぐ暮らしは、2年目に入っている。



Kuraco クラコ

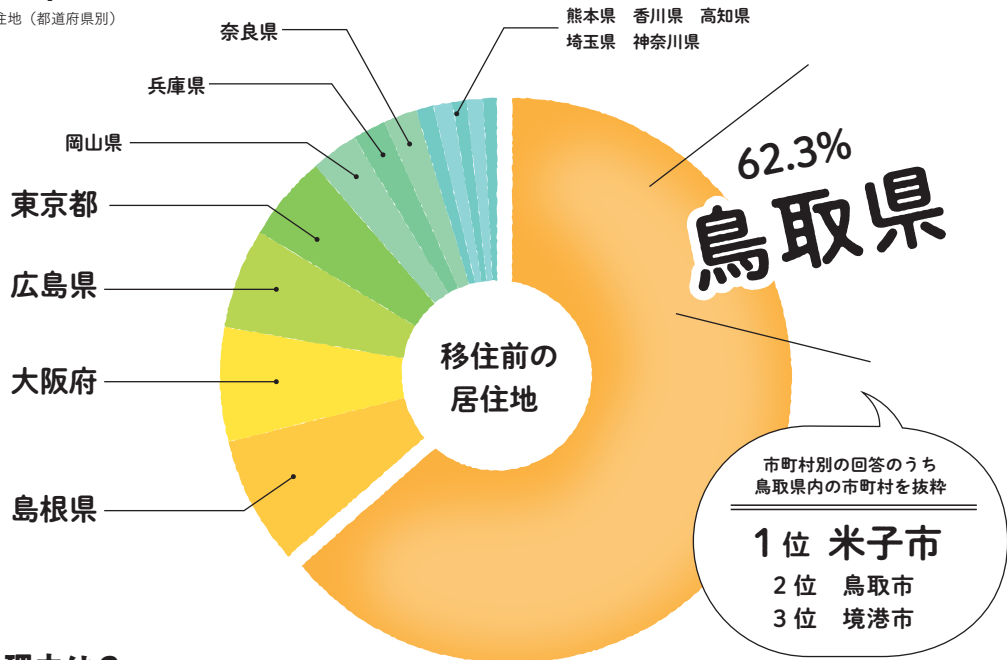
リフォーム・リノベーション専門、木製小物・テーブルなどのオーダー作成、DIYサポート、金属加工、機械・工場設備の修理など。
TEL 090-6834-1966 / MAIL jam_ash_ivy@yahoo.co.jp

どこから来たの？何をもとめて？南部町移住者に聞きました！

なんぶ移住者アンケート

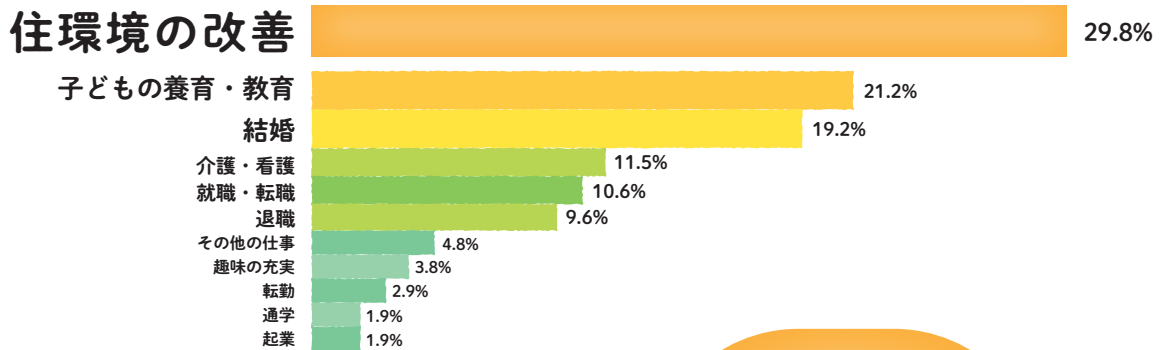
Q どこから来ましたか？

転居前の移住地（都道府県別）



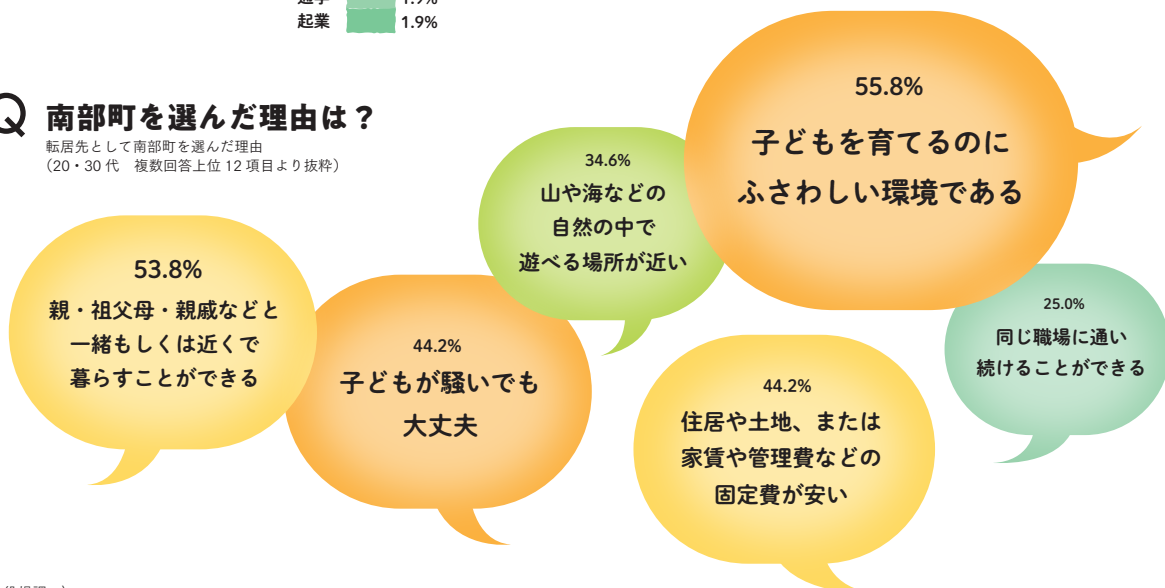
Q 移住の理由は？

南部町への転入理由（複数回答）



Q 南部町を選んだ理由は？

転居先として南部町を選んだ理由
(20・30代 複数回答上位12項目より抜粋)



〈南部町役場調べ〉

仕事×里人

ふるさとの記憶に
ジェラートの思い出が
残るように

益村 千代さん

家族構成・夫／子2人
広島県から1ター



ライブ音楽と同じ、作りたて、
今ここでしか食べられない味

結婚をきっかけに南部町に移り住み、地元でジェラート店を起業した益村千代さん。えんがーの富有に出店した『ジェラテリア・パッチェリービー』は、2018年7月オープンから1年半で10万人ほどを集め、その後も町の人をはじめ、県内外から多くのファンが訪れる店となった。

ジェラートは、ミルク、旬の果物や野菜など、食材そのものの風味を生かした手作りの味が特徴。鮮度が保たれてこそのおいしさなので、毎朝その日の分だけを作って売り、けつして翌日には持ち越さない。

「打ちたて蕎麦や鮎職人さんが、その日の食材をその日の天気に合わせて調理するのと一緒に」とほほ笑む益村さん。提供するフレーバーは約10種類でも、食材の収穫時期や鮮度、天気によ



自分の住む町でジェラート店を開くのが夢でした

味の配合比率を変えるため、毎日新たな気持ちで緊張しながら作っているという。そうして完成したジェラートは、ライブミュージックのように、その場その時だけのフレッシュな感動と興奮を連れてくる。まさに、今ここでしか食べられない味なのだ。2021年には、図書館、南部町の自然・歴史・文化に触れる展示館、多目的ホールなど備えた新しい複合施設『キナルなんぶ』のカフェエリアにも出店した。

「地元の農家さんやお客様との関わりを大切に、自分の住む町の目の届く範囲でジェラート店を開くのが夢でした。南部町は、結婚を機に大好きになった町。人が遠くから足を運んでも食べたいくなるようなジェラート作りを目指し、自分の住む町にたくさんの方が来てくれたらと願っています」

ジェラート好きが高じて 職人の道を歩み始める

益村さんは広島県出身。ラジオ局・FM山陰勤務をへて、フリーアナウンサーとして活動していた。趣味は全国の音楽ライブ巡りとアイスクリームの食べ歩き。その延長線上で、職人が手作りするジェラートのおいしさと出会った。各地で毎日のように食べたジェラートの画像と想いを、SNS（交流サイト）で無心に公開し続けた益村さん。それが縁で、島根県内のジェラート店の新店立ち上げに、職人として抜擢される事となった。職人経験は無いが、食べ歩きで鍛えた舌と情熱はある。独学で試作を重ね、イタリアにも短期で何度か勉強に行った。2年で人気店の基本レシピを確立した後は、広島市の有

名イタリアンの厨房で、ジェラート作りを担当。2017年には、その店のシェフと共にイタリアで開催された『国際ジェラートコンテスト』に出場し、10位入賞を果たした。

「その時、自分でおいしいと思う感覚を人に認めてもらえたと実感でき、独立する励みになりました」と振り返る。プライベートでは、南部町出身の夫、透さんとの間に授かった3歳の双子のお母さん。

「自営業なので、仕事と子育てが一体化してま

すね。3名の女性スタッフの内2名が子育て中。少人数で運営しながらも、大変な時は協力し合っ

て仕事をしています」店と家、保育園の距離が近く、子どもたちと過ごす時間も充分取れている。店には、お小遣いを握り、自転車ですべてくる小さな常連さんも多い。春になると、進学や就職で町を離れる前の学生が、両親と来店してくれることも。

「お客様のふるさとの記憶の中に、ジェラートを食べた日の思い出、味覚が残ってくれるよう、これからもおいしさを求めていきたい」と話してくれた。



ジェラテリア pa cherry b. (パッチェリービー)
西伯郡南部町市山 1087-1 えんがーの富有内
OPEN 10:00 ~ 17:00 / CLOSE 月火 ※祝日は営業
1月中旬 ~ 2月下旬まで冬季休業
TEL 0859-21-8100 / WEB <https://pacherryb.com>
per te (ベルテ)
西伯郡南部町法勝寺 341 キナルなんぶ内
OPEN 12:00 ~ 16:00 (金土日) ※出張販売時は休み
1月中旬 ~ 2月下旬まで冬季休業

地元に戻って気づく やりたい仕事は作り出せる

細田 正崇まさたかさん

家族構成・妻
東京都からUターン



人に届き心を動かす情報を わかりやすい映像制作で追求

東京から生まれ育った南部町にUターンして、9年目の細田正崇さん。帰郷直後から勤めていた米子のメディア関連企業を離れ、今は自宅を拠点に、映像制作の仕事を中心に活動している。学生の頃から雑誌やテレビなどメディア業界を志望し、就職は東京へ。テレビ関連の映像制作会社で、プロデューサーとして働いていた。

「上に姉が2人いて自分は長男ですが、いつかは鳥取に帰るなんて、東京時代は一切考えていませんでした」と振り返る。転機は2013年。当時はインターネットの動画配信サイトが全盛期で、細田さんはプロレスの試合を配信するサイトを立ち上げたが、毎日深夜まで働き1年間休み無しという激務の中、身体を壊してしまったのだ。医師から厳命され、会社を4カ月休職した細田さんは、一旦、南部町の実家に帰り、静養生活を送る。この間、会社に復職するか鳥取に戻るか悩み、試みに地元の就職相談会に足を運ぶと、《ふるさと鳥取県定住機構》の相談員との出会いが待っていた。

「18歳でふるさとを離れたので、鳥取の企業情報は何も知りません。地元メディアの仕事は無いと思いましたが、自分の経歴を活かせそうな地元企業をいくつか紹介していただき、そのひと月後にはUターン就職を決めることができました」

32歳で鳥取に戻り、米子のメディア関連企業で再始動した細田さん。その1年後には鳥取県の移住アドバイザーに認定され、東京・大阪で開催される相談会やセミナーで、自身のUター

ン移住経験をもとに相談者にアドバイスしたり、実際に移住してきた人をフォローする活動を今も続けている。

「映像は、ただ対象物や出来事を撮るのではなく、構想の道筋を作る作業が一番大変で大切なこと」と細田さん。現在は、業務委託する東京の映像制作会社に、リモートワークで映像を届ける。また、移住アドバイザーを務めていることから映像コンテンツ作りにも関わり、移住定住の情報発信に貢献している。一方で、梨と富有柿を栽培する農家の後継ぎの細田さん。今は父親の元で勉強中だが、地域農家の担い手不足問題にも思いを馳せる。四季の農家の表情や農業の魅力を映像で発信し、南部町で農業をやりたい人の背中を押すことを構想中だ。



自宅の中の仕事部屋。集中できる環境はもちろん、窓を覗けば外の草木が見え、ふっと息抜きもできる。

誰もが生涯活躍できる ごちやまぜコミュニティをめざして

鈴木 亜依子さん

家族構成・夫/子2人
東京都から1ターンの



個性を活かせる場を生み出し 町民が主役のまちづくりへ

鳥取県産大豆と天然にがりこだわった、手作りもめん『協力隊豆腐』の製造販売。農産物加工販売とカフェを併設した『めぐみの里』や、障がい者のためのグループホーム『アイル』の運営など。JOC A 南部事務所は、各地で地域創生事業の支援活動を行う（公社）青年海外協力協会の全国7拠点の一つだ。南部町が進める生涯活躍のまちづくりのパートナーの一翼を担い、2016年から法勝寺エリアを拠点に、担い手不足を解消するための事業継承、障がい者の就労支援事業、富有柿などの農産物を使った加工品開発など、様々な地域再生推進活動を行っている。

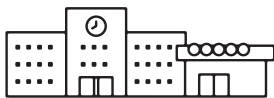
鈴木亜依子さんは、2021年4月、東京支所からの異動で南部事務所に赴任した。JOC A は、発展途上で開発援助に携わった青年海外協力隊（JICA）の経験と知識を、今度は国内外各地に還元するために作られた組織だ。鈴木さんも2007年から青年海外協力隊に参加し、中南米グアテマラ共和国で2年間、収入源を増やすための仕事づくりや商品開発、現地の農業支援などを行った。帰国後はJOC A に入職し、現在本部がある長野県駒ヶ根市での勤務をへて、出身地の東京勤務を続けていた。南部事務所への辞令がギリギリだったため、2人の娘さんは遅れて夏休みに到着。家具職人の夫の志峰（しほう）さんは東京の工房を離れられず、赴任中は別居することになった。それでも鈴木さんの引越時、娘さんたちの付き添い、年末と、南部町を訪れている。

「こちらは落ち着くねと言い、南部町が気に入ったようです。空気もおいしいし自然が豊か。四季を感じられるもうれしい。それに町の人が温かく、よく声をかけてくださいます。私は浅草に生まれ、子どもの頃はご近所としようゆを貸し借りするよいうな町で育ったので、懐かしくなります」と話す。着任後の7月にはグループホームの『アイル』が完成し、今年6月には法勝寺高校跡地を活用し、温泉と食事ができる多世代交流拠点施設『法勝寺温泉』がオープン予定だ。

「誰一人取り残されない地域、まちづくりを目指しています」と鈴木さん。子どもから高齢者、障がいのある人無い人、日本人・外国人に関わらず、全ての町民が支え合いながら暮らすことのできる「ごちやまぜ」コミュニティは、少しずつ形になっている。



JOC A 南部事務所
西伯郡南部町法勝寺 484（旧門脇呉服店）
TEL 0859-36-8010
WEB <https://www.facebook.com/pg/jocananbu/posts/>



出産～子育てまでシームレスにサポート！



なんぶの子育て応援制度！

子育て

子育て親育ち教室

子どもとの向き合い方など、子育てのコツを学ぶための教室です。

パパスクール

お父さん向けの子育て教室を実施しています。

離乳食講習会

離乳食のコツと成長にあわせた離乳食の進め方を一緒に学びます。

誕生祝い

満1歳及び満3歳になられた際に、誕生祝い品を進呈します。

絵本の進呈

7ヶ月、3歳、5歳の健診にあわせて、絵本を2冊ずつプレゼントします。

妊娠～産後

在宅育児世帯支援給付金

生後8週間を超えて満1歳までの乳児を保育園などに預けず、連続して1カ月以上家庭で保育する父母等に対し、給付金を支給します。

チャイルドシート購入費補助

6歳未満の子どものために購入したチャイルドシートの購入費を助成します。[上限10,000円]

集団での乳幼児健康診査

乳児健康診査(4ヶ月、7ヶ月、10ヶ月、12ヶ月)、1歳6ヶ月児健康診査、3歳児健康診査、5歳児健康診査があります。

すこやか乳幼児相談

保健師・助産師・管理栄養士・子育て支援員が体重測定や、栄養・育児に関する相談を行います。

健診・検査の助成

妊娠～産後の健診・検査の一部を助成します。
[妊婦健診：14回分を助成]
[産後健診：2回分を助成(産後2、4週間頃)]
[新生児聴覚検査：出産した病院で行なう新生児聴覚検査費用の一部を助成]

パパママ教室

妊娠・出産の正しい知識や赤ちゃんのお世話について学ぶ教室です。妊娠期からママ友、パパ友づくりもできます。

特別医療(小児)

18歳到達の年度末まで、医療費の助成を受けることができます。
[本人負担 通院 530円/回(同月同一医療機関で通院5回目以降と院外薬局は無料)]
[入院 1,200円/日(非課税世帯は月18,000円まで)]

産後ケア事業

産後にご家族などの支援が得られない方へ、施設において母子のケアなどを提供します。

出産～子育て

南部町で
楽しく子育て
してほしい！



子育て支援課 保健師
前田 知子さん

現場の人にQ&A!

Q 南部町の子育て支援について

A 町内外の方に向けてホームページや子育て支援サイトで取り組みなど随時発信をしています。教室の様子などの写真も載せていますので参考にしたいと思います。

Q 南部町のアピールポイントは？

A 子育て支援に関して専門職の配置を充実させています。子育て包括支援センターネットワークでは、保健師、助産師、管理栄養士、子育て支援員(保育士)を配置して対応し、また相談出来る場もたくさん設けています。小さい町なのでさまざまな関係機関と連携がしやすいと思います。

Q 支援側として心掛けていること

A 気軽に相談しやすい環境づくりと関係性づくりを心掛けています。加えて専門職には聞きにくいこともあると思うので親御さん同士の横の繋がりがもできるようなサポートをしています。

Q 大事にしていること

A 子育てを楽しんでもらうこと。

Q これから目指す未来像

A 妊娠期から出産、子育てまで安心して過ごしてもらおうと体制づくりが目標ですが、一番は楽しく過ごしてもらえること、南部町で子育てをして本当に良かったと思ってもらえることです。子どもたちが進学で外に出て、いつか町に帰ってきてここで生活してくれるように、南部町を好きになってもうえたらと思います。

南部町ってこんなところ！

充実した 医療と福祉

総合病院、全個室の老人ホーム、スポーツジムやプールを併設した総合福祉センターなど医療・福祉施設が充実！

自然豊かな 里地里山

西日本で唯一、環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山 500 選」に南部町全町域が指定されています。

安心安全な 子育て環境

結婚、出産、子育て、暮らしやすさを総合的に支援！様々な世代が健やかに暮らし続けられる町を目指しています。

教育支援

放課後児童クラブ

放課後または長期休業中に、仕事等で保護者のいない家庭の小学生を対象に開設しています。[4か所開設]

進学奨励金

高等学校等に在籍する生徒・学生で、経済的に就学困難な方に対して、進学を奨励するために交付します。[月額 6,000 円～9,000 円]

高校等通学定期券等助成

路線バスや鉄道を利用して高校等に通学する生徒の保護者に通学定期券や回数券の購入費用の半額を助成します。



ひとり親家庭に対する支援や障がいのある子どもと保護者への支援も行っています。詳しくは WEB へ

<https://www.town.nanbu.tottori.jp/kosodate/>

こども食堂

町内3か所で開催しています。保護者の方も利用できます。

教材費の補助

小学1～3年生までの教材費と、小学校全学年の学級費を全額補助しています。

就学援助制度

小中学校に通う児童生徒の保護者で経済的に困りの方に就学に必要な費用の一部を援助します。

学校給食費の軽減

小・中学生の給食費の保護者負担額を一部助成しています。

一時保育

保護者が急用などで保育に困ったとき、子育てのリフレッシュを図る時など、一時的に子どもを預かる施設です。

すくすく子育て健診

子どもの発達や育児の不安について相談できる健診があります。

短期入所（ショートステイ）

保護者の病気や出張などで数日間、保護者が不在になる場合に、児童養護施設または乳児院に子どもを預けることができます。

病児・病後児保育

生後6カ月から小学校6年生までの子どもが病気になって保育園や学校に行くことができず、家庭の都合で看病できないときに子どもを一時的に預けることができます。[南部町独自助成により1,000円/日で利用可]

教育支援

心豊かな
子どものための
まちづくり



教育委員会 教育長
福田 範史さん

Q 保護者への経済的支援について

A 義務教育に掛かる経済的負担を軽減するため、町立小学校の1年生から3年生までの教材費を無償としています。

Q 南部町のアピールポイントは？

A 「高校はないけど、高校生がいるー」をキーワードに、町内で高校生サークルや新☆青年団が元気に活動しており、子どもたちは自分の町で先輩たちが活躍する姿を見ることが当たり前になっています。若者の活動は町の大切な宝物です。

Q 子育て中の移住を考えている方へ

A 町立3小学校のうち、町内全域から通学できる「公見第一小学校」という小規模特認校があります。自然豊かでアットホームな環境の中、全校児童17名という小規模の良さを活かした学習活動を展開しています。少人数での学びを希望される場合の選択肢の一つになると考えます。*令和3年度10月1日時点

Q 大事にしていること

A 全国的にも早い段階から、コミュニティ・スクールという制度を導入し、地域の方々に学校運営に参画していただいています。学校だけでなく、地域総がかりで子どもたちの学びや育ちを支える「地域と共に歩む学校づくり」を展開しています。

Q これから目指す未来像

A 「ふるさとを愛し、志高く、南部町から未来を切り拓くひとづくり」の教育理念のもと、いろいろな人と出会い、地域の豊かさを実感できる機会を子どもたちの成長に合わせて、ちりばめたい。大人になったとき、南部町に心を寄せ、ふるさとを誇り、世界のどこにいても「南部町で育ちました！」と胸を張れるよう育ててほしいと思っています。

南部町の住まいや仕事探しもおまかせ！

里山暮らし応援制度！

移住定住の検討時から、住まいや仕事そしてアフターフォローまでトータルにサポートします。

南部町で暮らす



住まい

空き家をリフォームした賃貸住宅や公営住宅など様々な補助制度があります。

空き家一括借上げ制度

町内の空き家を10年間一括借上げしリフォーム後、借家として賃貸希望者に貸し出す制度です。→なんぶ里山デザイン機構

定住促進奨励金制度

町内に新たに住宅を取得された方を対象に、3年間固定資産税相当額を交付します。→企画政策課

三世帯同居等支援制度

新たに三世帯同居を始めるための住宅の新築・増改築のリフォーム費用の1/3(上限60万円)を補助する制度です。→建設課

若者向け住宅管理事業

35歳以下の若者向け住宅として平成26年度新たに1棟4戸を建設、家賃は月額2万円です。→建設課

子育て世代等応援 定住促進奨励金

町内のアパートに移住する新婚または子育て世代の家賃の一部を最大2年間助成します。→企画政策課

公営住宅

町営住宅172戸、県営住宅21戸の管理を行なっています。→建設課

おすすめ！

お試し住宅 えん処 米や

古民家を改修した住宅で、南部町での暮らしを体験できるお試し居住施設です。地域交流拠点としても活用されるまちの玄関口です。→なんぶ里山デザイン機構

南部町への移住を視野に入れた方が宿泊できる【お試し住宅エリア】とどなたでもご利用いただける【地域交流スペース】の和室と厨房を完備。まずはここを拠点に南部町の景色や暮らしを体感してみてください♪

※制度は令和4年4月のものです。

住まいと仕事

移住のアレコレ
おまかせ
ください！



なんぶ里山デザイン機構
西重 まりさん

Q 南部町の移住・定住への支援について

A NPO法人なんぶ里山デザイン機構では、住まいや仕事、暮らしのことはもちろん、移住への流れなど、移住に関する様々な相談を受け付けています。移住時には地域との架け橋となり、スムーズに地域へ入れるようサポートします。移住後も安心して暮らしていただけるようにフォローを行なっています。

Q 南部町のアピールポイントは？

A 南部町から車で30分圏内に山、海、温泉があり、マリンスポーツや釣り、スキーやゴルフ、登山やキャンプが気軽に楽しめますよ。田舎暮らしに自動車は必須ですが、都会と違って渋滞もなく、駐車場もほとんど無料で便利です。

Q 移住を考える方へ伝えたいこと

A 田舎では近所付き合いを大切に。ひっそりと人付き合いなく暮らしたい…という方は田舎暮らしはおすすめしません。地域の行事やおまつりに積極的に関わることがオススメです！地域に住む人との距離が近くなり、自分の住む町をより知ることができます。

Q 大事にしていること

A 良い面ばかりでなくデメリットもお伝えするようにしています。こんなはずじゃなかった、ということがないように、ありのままを知り、感じていただくようにしています。

Q これから目指す未来像

A 移住を希望される方はもちろん、たくさんの方に南部町を知っていただき、魅力を伝えていきたいです。移住された方が南部町をふるさとのように思い、住み続けていただけるよう、これからも寄り添ったサポートをしていきます。



仕事

移住希望の方へ専任スタッフによる就業サポートをしています。

無料職業紹介

南部町にU・Iターンを希望される方へ無料職業紹介事業を行なっています。ハローワークなどと連携して専任の職員が仕事探しをサポートします。→なんぶ里山デザイン機構

起業促進奨励金

南部町に新たに移住し起業する方で南部町商工会に加入した場合に「南部町起業促進奨励金」を交付します。→企画政策課

新規就農者支援

新しく農業を始められる方、これから農業を始めたいと考えている方へのさまざまな支援制度があります。→産業課

地域おこし協力隊

おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受け地域で生活し、各種の地域協力活動を行なっていただく制度です。南部町の協力隊募集状況は南部町ホームページをご確認ください。

しごとコンビニ

官民連携で行なう短時間ワークシェアリング事業です。雇用ではなく「業務委託」という働き方で、自分の都合に合わせて、どの仕事をいつするかなどを自分で選ぶことができます。子育てや介護をしながらの短時間の仕事や、経験やスキルを活かした仕事などを提供しています。→なんぶ里山デザイン機構

お問い合わせ

移住の相談！



NPO 法人なんぶ里山デザイン機構
TEL 0859-21-1595 (平日 9:00 ~ 17:00)
www.nanbu-satoyama.jp



町について！



南部町役場 法勝寺庁舎
TEL 0859-66-3112 (総務課)
<https://www.town.nanbu.tottori.jp>



お試し住宅！



えん処 米や
TEL 090-9068-8543 (平日 9:00 ~ 17:00)
www.nanbu-satoyama.jp/komeya/



南部町役場 各課

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| ● 企画政策課
TEL 0859-66-3113 | ● 子育て支援課
TEL 0859-66-5525 |
| ● 産業課
TEL 0859-64-3783 | ● 建設課
TEL 0859-66-3115 |
| ● 教育委員会事務局
TEL 0859-64-3787 | ● 健康福祉課
TEL 0859-66-5524 |

NANBU-CHO MAP



ACCESS

近隣から

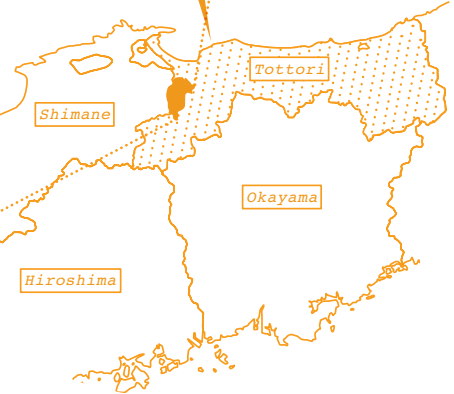
- ・米子駅～車で20分
- ・山陰自動車道 米子西IC～10分
- ・米子自動車道 溝口IC～15分

主要都市から

- ・東京～米子 飛行機1時間15分
- ・空港～南部町40分
- ・大阪～車で3時間30分
- ・広島～車で4時間

南部町情報

人口：10,474人（令和4年2月28日現在）
 面積：114.03km²
 学校等：保育園3／認定こども園1／小学校3／中学校2
 お店等：スーパー1／直売所3／ホームセンター2
 ドラッグストア1／コンビニ4
 ガソリンスタンド4等
 医療機関：6院（総合病院1／内科3／眼科1／歯科1）
 公共施設：公民館／体育館／運動場／野球場／図書館
 キナルなんぶ／総合福祉センターしあわせ
 （運動施設、プール、お風呂）等



▼ 至日南・岡山

南部町おすすめスポット!

家族で楽しめるスポットや里山の絶景スポットをご紹介します!

1

里人の憩いの場♪



キナルなんぶ

図書館やカフェエリア、コワーキングスペースなどが集まった里人の「学び・情報・交流」の複合施設です。

- 西伯郡南部町法勝寺 341 ● TEL 0859-46-0870
- 営業時間 9:00 ~ 22:00 ● <https://kinaru-nanbu.com>

2

日本最大級のフラワーパーク!



とっとり花回廊

大山を臨む景観の中、四季折々の草花を楽しめる日本最大級のフラワーパーク。冬季のイルミネーションも必見です!

- 西伯郡南部町鶴田 110 ● TEL 0859-48-3030 (代表)
- 営業時間 シーズンにより異なります。WEBにて最新情報をご確認ください。 ● <https://www.tottorihanakairo.or.jp>

3

桜のトンネルを歩こう!



Photo 今川幸司

法勝寺川土手の桜並木

法勝寺川に沿って約5km続く桜並木。見頃には桜のトンネルを散歩しながら、川のゆらぎや町並みといっしょに楽しめるなんぶの春の風物詩です。夜はぼんぼりが灯り幻想的な雰囲気に。

4

人気フォトスポット★



Photo 今川幸司

客神社 (小原神社・ブロッコリー神社)

田んぼの真ん中に現れる、まん丸の木々と小さな鳥居。通称ブロッコリー神社と呼ばれ里人から親しまれています。四季折々で姿を変え、オールシーズン楽しめる人気撮影スポットです。

5

アウトドアから美術館まで?!



緑水湖 周辺施設

木々に囲まれた湖周辺は散歩やランニング、サイクリングにぴったり。さらにオートキャンプ場やカフェ、郷土玩具や孔版画の並ぶ「祐生会いの館」や食事や宿泊もできる「緑水園」など盛り沢山のスポットです!

- <http://tottorinanbu-kanko.jp/spot/> 緑水湖 /

6

晴れた日は公園へ!



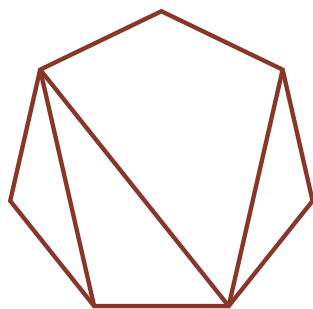
グリココそだてパークなんぶ

180号線沿いに広がる、芝生広場や遊具、東屋のある公園です。隣には広々としたスポーツ広場もあり年齢問わず町民たちが集まる憩いの場です。

ほかにも初夏のホタルや満天の星空など見所いっぱい! 詳しい観光情報は「南部町観光協会」をチェック! → <http://tottorinanbu-kanko.jp>



豊かな里山をデザインし、豊かなまちづくりに貢献します。



NPO法人

なんぶ里山デザイン機構

Nanbu-Satoyama Design Association

移住定住サポート

移住定住の検討時から、住まいや仕事そしてアフターフォローまでトータルサポート！お試し住宅で里山体験もオススメです。

空き家一括借り上げ事業

空き家を活用し、移住・定住を促進しています。町内の空き家を10年間一括借上げしリフォーム後、借家として利活用します。

しごとマッチング

町内在住の方、移住希望の方などに向けた無料職業紹介事業を行なっています。また新事業として「しごとコンビニ」にも取り組んでいます。

なんぶ里山デザイン大学

南部町の豊かな「里地里山」をフィールドに里山暮らしに関わる講座を実施しています。町内外の方々が参加できる交流の場にもなっています。

※文部科学省が定める大学ではありません。

ふるさと納税

南部町から「ふるさと納税業務」の委託を受け、ふるさと納税の受付、返礼品の発送などを通して各特産品の魅力を発信しています。

えん処 米や

古民家を改修した「えん処 米や」は、移住希望者へのお試し住宅や、誰もが利用できる地域交流拠点として多目的に活用できる施設です。



官民連携で行なう短時間
ワークシェアリング事業

「ちょっとだけ働きたい」×「ちょっと手伝ってほしい」

年齢や時間、体力など、何かしらの制限があり働きたいけど働けていない方々の「ちょっとだけ働きたい」と、事業所や個人の「ちょっと手伝ってほしい」を業務委託という形でつなぎます。

どの仕事をいつするか等を自分の都合や希望にあわせて決める働き方です。子育てをしながら自分らしく働きたい、介護があるので短時間だけ働きたい、経験やスキルを活かしたい、新しいことに挑戦したい、一人ひとりの「なりたい」「やりたい」に寄り添いながら学びや交流の場を通じて仕事を提供します。「話を聞いてみたい」「相談したい」等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

電話 0859-21-1595 (平日9:00~17:00)

<http://www.nanbu-satoyama.jp>



前回の「なんぶの里人 VOI.1」は今号の表紙を飾っている
幅田舞さんが地域おこし協力隊時代に

面白い人、移住された人などを取材した原稿を元に再編集したもので、
この南部町でいきいきと暮らす住民の皆さんの様子を
お伝えすることができました。

そして、わたしたちの住む鳥取県・南部町には
まだまだご紹介したい方が沢山いるということで、
今回はIターン、Uターンしてこられた方の

「仕事・子育て」をテーマに人選し、8名の方を新たに取材しました。

取材に同行して印象的だったのは、
とにかく皆さん南部町での暮らしを楽しんでいるということ。

いきいきと生活されている姿を目の当たりにし、

昔からの住民であるわたしたちが気づかされる事も多く、

わたしたちの住む町の良さを再発見できた良い機会となりました。

全国のどこの市町村にも素敵なポイントがあると思いますが、

その中からご縁やきっかけでこの南部町で暮らす事になった皆さんが、
こんなに楽しく日々お仕事や子育てをされている姿を

今回もお伝えする機会が出来たことを本当に嬉しく思います。

わたしたちはこの「なんぶの里人 VOI.2」を通じて、

少しでも鳥取県・南部町に興味をもっていただけるよう
試行錯誤しながら今後も情報発信をしたいと思います。

なんぶの里人 編集部一同

なんぶの里人 vol.2 2022年4月発行

Producer & Director
吉田 慎吾 / d-magic

Advisor
西重 まり

Art director & Designer
矢倉 麻祐子 / d-magic

Editor
島 香子

Photographer
齋藤 愛

Publisher
NPO 法人なんぶ里山デザイン機構
TEL 0859-21-1595 / 平日 9:00 ~ 17:00



Photo by AI SAITO

なんぶの里人 vol.2

発行：NPO法人なんぶ里山デザイン機構
鳥取県西伯郡南部町浅井938番地 南部町総合福祉センターいこい荘内
TEL 0859-21-1595 (平日9:00~17:00) www.nanbu-satoyama.jp